昭和48年12月5日

(678)

昭和48年1月5日発行　第675号　旬刊とかち新聞　(第3種郵便物認可)　(2)

本別地区労大会

町

の臨時大会北斗郡の加藤知事を推薦した。拡大した北斗郡の加藤知事を推薦した。かりたが、候補者が来て、『いい』と、来賓川社会党十勝ブロ

このようにこのもしたこと

波乱の次期道議選

本別と足寄の場合

次期道議選十勝郡部の場合は、定員の五名が四名に減員のおそれもあつて波乱ふくみとなつていますが、現職で再出馬が確実なのは自民党の堀田毅、笹井望、社会党の新村源雄の三氏だけで、自民党の石畑久成氏は形勢観望の形で、社会党の渡部勇雄氏の跡目をめぐつて北敎組の保格博夫、国労の沢田久雄、全逓の村田政治の三氏が争つており、調整がつかなければ渡部氏ということになりそうで、新人では共産党の飛岡久氏と保守系無所属の長谷川義信氏が確定、公明党の宮口政雄氏、革新系無所属の鳴海一郎氏、自民党の大野耕太郎氏らはいずれもこれから態度を決めようとしており、それが足寄町に集中しているところに問題があります。

これは本年一月二十四日の臨時足寄町議会のあとの議員懇談会で、大滝議長から『次期道議選に本町から出せるものなら超党派で出すことにしたい』と呼びかけたのがキツカケで

一、本町から立起させるべきである

二、候補者の選考は議長と町長に一任する

ことになつたもので、この結果、両世話人から副議長の斉藤昇氏や自民党支部幹事長の高橋佳夫氏に立起を要請したものの承諾が得られず、このあと意欲のある鳴海一郎、大野耕太郎、宮口政雄の三氏のなかからしぼつてはという状勢になつたところ、自民党支部の役員会では世話人の小林町長こそが最適任だとして逆に立起を要請することになつて選考作業がモタツイたもので、この状態に活を入れるように鳴海氏が九月の町議会で『だれも出なければ私が出る』と立起宣言におよんだために候補者選定が急がれて、両世話人から町内の各政党支部にたいして十一月十五日を期限として道議選対策の回答を求めたところ、社会党は町内から立てない、共産党は飛岡久氏を決めている、公明党は郡部定員が四名になりそうなので情勢を検討中とのことで、自民党だけは回答を延期したものでした。

このために町議会の自民党議員団（三翠会）では十二月一日に臨時総会をひらいて、一応大野氏を推すことにして明年一月中に本人の準備体制をみとどけたうえで支部へもち込むことにしていますが、この三翠会には鷲足支部長から大浦、高橋、阿部副支部長、新沼元支部長に大滝議長、斉藤副議長も顔をそろえているので、ここでの決定は自民党支部に大きく影響することになります。

しかし支部としては道議選ともなれば足寄町だけの問題ではないので、本別、陸別、浦幌町など隣接支部の同調、協力が得られなければ道連の公認はもとより当選は難しいので、先決問題は近接支部との提携いかんで、それによつて新年に入つて臨時支部大会をひらくことにしています。

もともと次期道議選については四十七年の二月に足寄町で足寄、本別、陸別、浦幌四町の自民党支部合同役員会をひらいて協議した結果、四町支部が一致して候補者を立てることにして一応各支部の持ち駒として本別は岡崎克雄、井出利一郎、足寄は斎藤昇、高橋佳夫、陸別は竹内千代蔵、西野一郎の六氏をあげましたが、その後本別支部では大会決議で岡崎氏一人にしぼつていたようにどちらにしても四町支部間の話し合いで各支部の持ち駒を降ろして大野氏一本にしぼることになるかどうかにかかつています。

さらにその前に大野氏自身の〝臨戦体制〟はどうかすでに立起を表明している鳴海氏との調整もあり、問題はこれからということです。

一方、本別町の長谷川義信氏の場合は、四十七年一月の議員協議会で水元町長から『本別から道議を…』との提唱によつて立起の動きとなり、自民党本別支部へ入党を申し込んだものの認められないままに二月に長谷川氏擁立世話人会がもたれて後援会設立準備委員長に幡省三氏を推して、会員募集にあたり、同年七月に農協会館に四百名の支持者があつまつて本別後援会が結成され、石山利雄会長以下の役員は町内有力者を網羅しての陣容でスタートしました。

すでに長谷川氏はスベリ出しの早さで全管内を精力的に駈けまわつて支持層を固めており、老令化して沈滞気味の保守現役にくらべてその活動力が期待されてかなり有望な線にいつているのに、ここで同じ地域から同じ保守派のともに中川派から二人も立つことになれば共倒れは必至で、池北線の政治力は元も子もなくなると心配する向もあります。

しかし四町の自民党支部のあいだでは前々から〝天下の政府与党〟として自らの公認候補を出さないのは無責任だとしてよりより連携を保つてきたもので、立地的には足寄町からが条件がよいとして足寄支部の出方待ちとなつていました。

そのために新年に入つて足寄支部が大野氏を打ち出すことになれば他の三町支部の協力態勢は得られるものとみられ、したがつて自民党公認の可能性があるこで、勝農出身で現在三十二才の若さで町議会の産業副委員長、支部の政調会長、自民党十勝連合青年部の議長、支庁がきも入りの十勝青年開発会議の議長をはじめ全管内的な各青年団体のリーダーとして活躍しているので、新人としては相当の得票が望めるものと期待しています。

とにかく観光足寄といわれながら阿寒往復のホコリをかぶるだけといつた現状を打開して、年間八十万人の観光客の足をいくらかでも町内にとどめようとした小林町長の中小企業対策をもふくめた里見ガ丘公園計画は、町議会でなんのかのといわれながらも地元食堂組合が中心になつて建設資材不足、高騰のなかで一億円をかけて商業ベースの中心施設ができたことでホッとしています。

これから町としては過疎振興計画にもとずいて、すぐ向い側の青少年会館を中心にツツジ園、小鳥村、野草園、野外劇場、キャンプ場、レクリエーション広場を設けるほか、市街よりにかけて公式陸上競技場、野球場、球技広場、テニスコート、水泳プール、相撲場和洋弓場から総合体育館、文化センターなどをつくつて観光客の滞留、体育大会や諸行事により町外からの受け入れ、町民の保健、体育、レクリエーション、いこいの場として三〇六㌶の大面積をフルに活用することにしています。

はなやかにオープン

グリーンパーク

足寄高原観光株式会社（黒川利喜弥社長）によるフアミリーランド・足寄グリーンパークは十六日のオープンに先立ち十五日に町内外の来賓二百名を招いて華やかな披露パーテーをひらきました。

はじめに同社の長田専務から開会あいさつ、黒川社長の開店あいさつにつづいて水野常務、五十里監査役など各役員の紹介があつて来賓を代表して小林町長、大滝議長、新沼商工会長から祝辞があり、中川大蔵政務次官をはじめ各方面からの祝電披露があり、渡辺国民金融公庫帯広支所長の乾杯発声で祝宴に入りました

ここは国道二四一号線と二四二号線が交叉する三叉路の高台で、町が国費導入で建設をすすめている大型都市計画公園としての里見ガ丘公園のなかでもつとも市街側に突き出ているところで、市街の全景はもとより仙美里ダムから遠く雌阿寒岳まで一望にできるという便利ないこいの景勝地で一階はドライブイン、レストラン、ゲームコーナーに大浴場で、男女別のほかに岩風呂もあり、女子浴場からの眺めが一番よく、二階は百畳敷の舞台つき大広間に宿泊施設があり、夏になれば屋上はビヤガーデンに周囲の庭園は野外パーテーに活用することにしており観光客ばかりではなく婚礼披露宴や忘年会、新年会、慰安会や諸会合から仕出しまで、黒川社長以下の役員がいずれも調理士として腕をふるうことにしています

なにしろ国道沿いで五百台は収容できる大駐車場をもつこの地帯にグリーンパークがオープンしたことによつて郷土特産の食料品、民芸品、銘石、樹木、みやげ品などの各売店が町の計画によつて勢ぞろいすることになります。

とかち新聞　主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月150円　1カ年前納1、500円

とそちそと国のうち

★ジャンボジエット機の輸送力は資材一トンあたり一人、自動車は一トンあたり一・五人というゼイタクな乗りものであるのにたいして、新幹線鉄道で一トンあたり五人、自転車になると一トンあたり実に十五人も乗れて石油や公害の心配もないこと

★高速道路をブツ飛ばす側は快適だろうが騒音と排気ガスで安眠もできずゼンソクに悩まされる周辺の住民にとつてはまことに迷惑千万。

★戦後成金の道楽息子のように、自動車の増加ぶりは先進諸国の三倍、五倍のはげしさで、これで交通事故が増大しなければおかしなもので、交通戦争こそは第三次大戦そのもの。

★クルマ文明はすでに文明の破壊者の役割をになつており、不要、不急なクルマはこれを排除していくのが自由な社会。

★通勤、通学、旅行は自転車、鉄道、バスを主体とすべきで、サツパリ利用も

文明の破壊者

★戦後成金の道楽息子のように、自動車の増加ぶりは先進諸国の三倍、五倍のはげしさで、これで交通事故が増大しなければおかしなもので、交通戦争こそは第三次大戦そのもの。

★地獄の沙汰も金しだいといつた自由な社会ではなく、派閥の親分が財界から金をあつめて子分をふやしていつて政権の座につくというのではなく、このモノ不足時代に入つては社会正義のうえに立つた計画経済をすすめるために、庶民大衆を主にした清潔な政治でなければならず、高度成長を安定成長にーは佐藤内閣でもいつていたことで、そんなカケ声ぐらいでは手に負えない時代に入つたこと

喪中につき年末年始のごあいさつをご遠慮させてさせていただきます

北海道議会議員
渡部勇雄
池田町大通り一丁目

足寄町議会産業委員長
足寄町農業共済組合長
吉田吉之助
足寄町開北

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
(に)自動車　新津はなや
足寄町西三区　T　二六二六

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の　芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

庭石は道東随一の当会社へご命下さい　造園　土木　造林　造材
有限会社　大浦建設
足寄町芽登　T11　大浦

家具　建材　アルミサッシ
既製家具から注文建具
住宅産業に奉仕する！
有限会社　桜井家具建具
足寄町北五区　T　二三六二　工場西

一五〇㌔高速ホイルバランサー　新鋭機
レッカー車　導入！
RM　アクリル　調色機
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
ボンコツ車買い入れます　足寄町　T　二五七

不動産についての御相談は
調査　売買　あつせん　管理　分代行　登記　損害保険　代理ま一同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務
足寄町本通り三丁目　T二三

セーター祭り
セーターが大量に入荷いたしました。
店内いつぱいに陳列いたしセーター祭りをおこなつております。ぜひご来店下さい。
なお、階上には京呉服も陳列してありますのでご気軽にお立寄り下さいませ。
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　(三二〇)